

年	出来事	主義、学問分野など	メモ（参考資料より）	参考資料
1818	シェリー夫人 小説『フランケンシュタイン』刊行		現代にさがけて、電気を人工生命としての怪物フランケンシュタインの誕生に象徴的に結びつけてみせた。	船木亨『現代思想史入門』筑摩書房、2016
1842	バルザック 小説『人間喜劇』刊行（1842-48）		19世紀にはじまる近代的な生活様式がえがかれた。	船木亨『現代思想史入門』筑摩書房、2016
1908	ヴォーリンガー『抽象と感情移入』刊行			
1911	西田幾多郎『善の研究』刊行			船木亨『現代思想史入門』筑摩書房、2016
1912	カンディンスキー『芸術における精神的なもの』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
	ヴァールブルク『フェラーラのスキファノイア宮におけるイタリアの美術と国際占星術』発表			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1913	アポリネール『キュビズムの画家たち』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1915	ヴェルフリン『美術史の基礎概念』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1919	ホイジンガ『中世の秋』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1924	フリートレンダー『初期ネーデルランド絵画』刊行（～1937）			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
	ドヴォルジャーク『精神史としての美術史』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
	シュロッサー『美術文献』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1927	ハイデガー『存在と時間』刊行（2013年邦訳刊行）	現象学・実存主義	・現代思想の金字塔／「主体/客体」以前の意識／現在の生を解明すること ・ハイデガー（1889-1976）ドイツの哲学者。『存在と時間』の他、『形而上学とは何か』などの著作がある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	フォール『形態の精神』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1928				
1929	フッサール『超越論的現象学入門』バリ講演（1931年に『デカルト的省察』として刊行）			船木亨『現代思想史入門』筑摩書房、2016 小学館 日本大百科全書(ニッポニカ)
1930				
1931				
1932				
1933				
1934	フォシヨン『形態の生命』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1935	ドールス『バロック論』仏版刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1936	フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』刊行（1974年邦訳刊行）	現象学・実存主義	・「生活世界」から捉えなおす／「判断中止」の戦略とその不徹底／デカルト以降の袋小路 ・フッサール（1859-1938）ドイツの哲学者。現象学の創始者。ハイデガー、サルトルらに強い影響を与えた。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』刊行（1995年邦訳刊行）	表象文化面からの資本主義批判	・芸術と精算条件／「オリジナル」が帯びる「アウラ」／「写真」、そして「映画」へ／映画の功罪 ・ベンヤミン（1892-1940）ドイツの批評家。独特の思想を展開し、多くのエッセイを残した。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	L・ヴェントゥーリ『美術批評史』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1937	『Partisan Review』復刊		・反スターリニズム＝トロツキズムを標榜するユダヤ系「ニューヨーク知識人」サークルの代表的な雑誌として復刊。隔月刊のリトルマガジン。8000部。 ・グリーンバーグは『Partisan Review』で論文をいくつか発表し、1940年には編集長となった。	2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1938				
1939	グリーン・バーグ「アヴァンギャルドとキッチュ」を『Partisan Review』で発表		以下、筒井氏のスライドより ・アヴァンギャルドをキッチュから区分 ・メディアムの自己批判 ・タリを「外侮の主題の復活を企てる」と批判 ・芸術の自律性を唱えつつも、社会との関係からその必要性を説く ・本論文はシュルレアリスト批評家であるニコラ・カラスからも称賛された	『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	パノフスキー『イノコロジー研究』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より

1940	グリーン・バーグ『さらに新たなるラオコオンに向かって』を『Partisan Review』で発表			『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
1941				
1942	カミュ『異邦人』刊行		・カミュ（1913-60） ・バルトは、『異邦人』を「特定の視点からの“現実”を“自然”視するイデオロギーに加担せず、中世的（neutre）な態度を保持する」「 「人間」をそのまま表示する 」エクリチュールの先駆者とした。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1943	サルトル『存在と無』刊行（1956-60年邦訳刊行）	現象学・実存主義	・「自己意識」めぐる葛藤／根源的不安の中の自由／「他者」のまなざしを意識するとは ・サルトル（1905-80）フランスの哲学者、作家。哲学書以外にも小説『嘔吐』『自由への道』、戯曲『蝇』『悪魔と神』などの著作がある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1944				
1945	メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』刊行（2009年邦訳刊行）	現象学・実存主義	・「身体」と「世界」のつながり／意識をめぐる考察／身体の広がり／身体と言語の関連性／体染みついた自由 ・メルロ＝ポンティ（1908-61）フランスの哲学者。後期フッサールの影響を受け、独自の現象学を展開した。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1946	『ニューヨーカー』の美術時評担当のロバート・コーツが、ジャクソン・ポロックやアール・ゴッキー、ウィレム・デ・クーニング、ロバート・マザウェル、バーネット・ニューマン、マーク・ロスコなどによって当時アメリカで席巻していた美術運動を「抽象表現主義」と命名。別名、ニューヨーク・スクール			2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
	フランスの『レ・タン・モデルヌ』にグリーンバーグが「20世紀アメリカ美術」を寄稿	グリーンバーグ言説のフランス受容		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1947	アドルノ／ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』刊行（2007年邦訳刊行）	表象文化面からの資本主義批判	・啓蒙的理性への批判／等価交換原理の浸透／啓蒙のゆくえ ・ホルクハイマー（1895-1973）ドイツの哲学者。フランクフルト学派の指導者。アドルノ（1903-69）ドイツの哲学者、社会学者。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	アンタル『フィレンツェ絵画とその社会的背景』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1948	ゼーデルマイヤ『中心の喪失』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1949	グリーン・バーグ『新しい彫刻』を『Partisan Review』で発表			『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	K・クラーク『風景画論』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	ウィトカウアー『人文主義時代の建築原理』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1950				
1951	フランカステル『絵画と社会』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	マルロー『沈黙の声』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	ハウザー『芸術と文学の社会史』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1952	ハロルド・ローゼンバーグ（1906-78）が論文「アメリカのアクション・ペインターたち」を『Art news』で発表。「アクション・ペインティング」が命名される。			2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
	クリス『芸術の精神分析学的研究』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1953	バルト『エクリチュールの零度』刊行（2008年邦訳刊行）	構造主義	・言語体と文体の間／サルトルとバルトの違い／エクリチュールという問題の歴史／先駆けとしてのカミュ『異邦人』 ・バルト（1915-80）フランスの批評家。構造主義の立場から、文学、言語、芸術などの分野で批評活動を展開。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1954				
1955	グリーン・バーグ「『アメリカ型』絵画」を『Partisan Review』で発表			『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	ユイグ『見えるものとの対話』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	バルトルシャイテス『幻想の中世』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	シャビロ『レオナルドとフロイト』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1956	ベグスナー『英国美術の英国性』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より

1957	リード『アイコンとイデア』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1958	グリーン・バーグ「コラージュ」を『Art news』で発表			『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	ウィント『ルネサンスの異教秘儀』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1959	ガントナー『芸術における未完成』			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
	シャステル『ロレンツォ豪華王時代のフィレンツェの芸術と人文主義』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1960	グリーン・バーグ「モダニズムの絵画」を『Forum Lectures』で発表		・下記の記述について、筒井氏はグリーンバグの矛盾点と指摘。「絵画平面における感性の高まりは、彫刻的なイリュージョンもトロンプ・ルイユももはや許容しないかもしれないが、視覚的なイリュージョンは許容するし許容しなければならない」(P70)	『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	ゴンブリッチ『芸術と幻影』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1961	レヴィナス『全体性と無限』刊行(2005-06年邦訳刊行)	現象学・実存主義	・倫理の可能性／他者との遭遇／近代的な「正義」を越えて／他者としての「異邦人」「寡婦」「孤児」 ・レヴィナス(1906-95)フランスの哲学者。フッサールとハイデガーの研究に従事する。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	ファノン『地に呪われた者』(1996年邦訳刊行)	文化的他者論	・暴力による脱植民地化／大地を生きる民衆を全体化する暴力／ソレルからの影響／民族文化の積極的な創造／植民地化された抑圧のもとの病 ・ファノン(1925-61)フランス領マルティニーク島生まれの精神科医、思想家。アルジェリア民族解放戦線に参加し、理論的指導者となる。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	グリーンバーグ『芸術と文化』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1962	レヴィ＝ストロース『野生の思考』刊行(1976年邦訳刊行)	構造主義	・文化人類学の留まらない思想／西欧近代とは異なる論理／直接知覚できないものを表象する／トーテムの記号の体系 ・レヴィ＝ストロース(1908-2009)フランスの文化人類学者。『悲しき熱帯』『構造人類学』などの著作もある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	エーコ『開かれた作品』刊行(1962、67年原書刊行。1997年邦訳刊行)	ポスト構造主義	・秩序が一致しない世界で／観る主体の関与／コードとは異なった秩序／ ・エーコ(1932-2016)イタリアの記号学者、小説家。著書に『不在の構造』『フーコーの振り子』などがある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	グリーン・バーグ「抽象表現主義以後」を『Art International』で発表		・「伸張され誤留めされたキャンバスは、すでに絵画として存在する――ただし、必ずしも成功した絵画としてではないが(この削減の逆説的な結果は、絵画たるものの可能性を狭めるのではなく、現実には広げることになった～略)。」(P159)	『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	『ArtForum』がサンフランシスコで創刊		・1967年にニューヨークに移転 ・ミニマリズムとコンセプチュアル・アートの主戦場となる。 ・歴代の編集長は、フリード、ロザリンドクラウスなど ・1974年のグリーンバーグのスカンダルで編集が総崩れになる	2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 (本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された)
	クブラー『時間の形』			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の『西洋美術史作品年表』『研究史・批評史』より
1963				
1964	グリーン・バーグ(1909-94)が「ポスト・ペインター・アブストラクション」展を企画			2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 (本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された)
	グリーン・バーグ「ポスト・絵画的抽象」を発表 ※単行本か論文か未確認			『グリーンバーグ批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	スーザン・ソntag「キャンプについてのノート」を『Partisan Review』で発表	グリーンバーグバッシング	・1960年代後半以降、作家や批評家たちからグリーンバーグバッシングがおきるようになる(筒井)	2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバーグからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 (本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された)
1965	アルチュセール『マルクスのために』刊行(1994年邦訳刊行)	構造主義	・科学としてのマルクス主義／スターリン批判以降のマルクス主義／「唯物弁証法」の正しい理解／ロシアで社会主義革命が起きた理由 ・アルチュセール(1918-90)フランスの哲学者。他に『資本論を読む』などの著作がある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017

	ビヤオストツキ『様式と画像』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1966	ラカン『エクリ』刊行（1972－81年邦訳刊行）	構造主義	・フロイト理論の再解釈／欲望を言葉にして意味を解き放つ／「象徴界」「想像界」「現実界」／ラカンのジレンマ ・ラカン（1901-81）フランスの精神分析学者。精神分析以外にも哲学、言語学、文学などに多くの影響を与えた。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	フーコー『言葉と物』刊行（1974年邦訳刊行）	構造主義	・近代の特異性／古典主義時代まで／近代以降の人間の誕生 ・フーコー（1926-84）フランスの哲学者、歴史学者。著書に『狂気の歴史』『性の歴史』などがある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1967	デリダ『グラマトロジーについて』刊行（1972-76年邦訳刊行）	ポスト構造主義	・西欧的思考への批判／エクリチュールによる支配／エクリチュールは「産延」を増幅させる／ルソーが作りだした幻想 ・デリダ（1930-2004）フランスの哲学者。アルジェリア生まれ。脱構築をキーワードとした哲学理論を唱えた。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	マイケル・フリード「芸術と客体性」発表	グリーンバークバッシング		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1968	吉本隆明『共同幻想論』刊行	日本の現代思想	・脱近代的な人間観／「自己幻想」「対幻想」「共同幻想」／「対幻想」と「共同幻想」の結び付き ・吉本隆明（1924-2012）思想家、詩人、文芸批評家。『言語にとって美とは何か』など多くの著書を残す。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	レオ・スタインバーク「他の基準」講演	グリーンバークバッシング		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1969	クリステヴァ『セメイオリケ』刊行（1983-84年邦訳刊行）	ポスト構造主義	・対話するテキスト／意味に着目した記号分析／「意味」の産出の痕跡をみる／「間テキスト性」を定義する／自己生成する物語 ・クリステヴァ（1941-）フランスの文学理論家。ジェンダー研究に大きな影響を与えている。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	コースス「哲学以後の芸術」発表	グリーンバークバッシング		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
	ジャッド「不満」発表	グリーンバークバッシング		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1970	ボードリヤール『消費社会の神話と構造』刊行（2015年邦訳刊行）	表象文化面からの資本主義批判	・記号への呪縛／資本主義は物質崇拜を拡大再生産させる／「ネオ・リアリティ」の世界 ・ボードリヤール（1929-2007）フランスの社会学者。現代消費社会を分析した。『象徴交換と死』などの著作もある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1971	グリーン・バーク「『フォーリズム』の必要性」を『New Literary History』で発表			『グリーンバーク批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
1972	ドゥルーズ／ガタリ『アンチ・オイディプス』刊行（2006年邦訳刊行）	ポスト構造主義	・エディプスと資本主義／三角形の循環論法／なぜエディプス仮説は受け入れられたのか／欲望機械の運動／「社会的機械」の発見 ・ドゥルーズ（1925-95）フランスの哲学者。ガタリ（1930-92）フランスの精神医学者、思想家。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	廣松渉『世界の共同主観的存在構造』刊行	日本の現代思想	・本当のマルクス主義哲学／四肢構造による認識／制度としての「役柄・演技」／物象化論の有効性 ・廣松渉（1933-94）哲学者。マルクスの研究に多大の功績を残し、独自の哲学を作り上げた。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	バクサンドール『ルネサンス絵画の社会史』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1973	グリーン・バーク「イーゼル画の危機」を『Partisan Review』で発表			『グリーンバーク批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
1974	『アート・イン・アメリカ』誌で、ロザリンド・クラウスがグリーン・バークのスクエングルを暴露		・クラウスは、グリーンバークの名を出さなかったが、デイヴィッド・スミスの作品が死後に手を加えられていることを比較写真で証明。グリーンバークはデイヴィッド・スミスの遺作管理人の一人だった。この件は「ニューヨークタイムス」や「タイム」などでも報道された。	

	フランスの『絵画、理論ノート』にグリーンバークの「モダニズムの絵画」が翻訳掲載される	グリーンバーク言説のフランス受容		2017年3月20日、簡井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 (本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、簡井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された)
1975				
1976	クラウドとアネット・マイケルソンによって『オクトーバー』創刊			2017年3月20日、簡井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 (本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、簡井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された)
	ハスケル『芸術における再発見』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1977	ベヒト『美術への洞察』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1978	サイード『オリエンタリズム』刊行（1993年邦訳刊行）	文化的他者論	・「東洋」をめぐる根深い問題／オリエント研究の流れ／「顕在的オリエンタリズム」と「潜在的オリエンタリズム」／人文主義に内在する抑圧 ・サイード（1935-2003）パレスチナ出身のアメリカの比較文学者。西欧中心の中東、アジア観を批判した。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	柄谷行人『マルクス その可能性の中心』刊行	日本の現代思想	・マルクスの記号論的視点／「労働」ではなく「商品」／紙幣という「文字」の表象作用／再流動化するための闘い ・柄谷行人（1941-）哲学者、文芸批評家。『日本近代文学の期限』など、哲学のみならず文学にかんする著作も多い。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1979	リオータル『ポスト・モダンの条件』刊行（1994年邦訳刊行）	ポスト構造主義	・「合意」から「相違・対立」へ／科学的「知」の特権化／物語の不可避性／「パラロジ」という新しい物語／・リオータル（1924-98）フランスの哲学者。近代を「大きな物語」と批判する立場をとった。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	ブルデュー『ディスタンスション』刊行（1990年邦訳刊行）	表象文化面からの資本主義批判	・文化を表象する分類闘争／文化的な「慣習行動」が与える影響／階級ごとの生活様式／「分類闘争」という側面 ・ブルデュー（1930-2002）フランスの社会学者。文化財の不平等について解き明かし、文化資本という概念を定着させた。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	蓮寛重彦『表層批評宣言』刊行	日本の現代思想	・文学、批評の精度を解体する／「制度」的情性にしがみつく貧しさ／貧しさを回避するために／表象の3つの要素をみる ・蓮寛重彦（1936-）映画批評家、文芸批評家、小説家。第26代東京大学総長。『反＝日本語論』など多数の著作がある。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1980	ベルティング『中世におけるイメージと民衆』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	フリード『自己没入と演劇性』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1981	ボロック／バーカー『女、アート、イデオロギー』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	ブライソン『言葉とイメージ』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1982				
1983	浅田彰『構造と力』	日本の現代思想	・ポストモダンの教養／「脱コード化」という特徴／パラノイアとスquizofrenia ・浅田彰（1957-）哲学者、批評家。ニュー・アカデミズム・ブームを引き起こした『構造と力』は15万部を超している。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
	セルジュ・ギルボー『いかにしてニューヨークはモダン・アートの理念を盗んだのか？』英訳刊行 ※原著刊行年未確認、書籍か論文かも未確認		・戦後、アートの中心地がパリからニューヨークに移った。要因は、戦後の経済的發展に加えて、アメリカで中所主義表現という新しい美術が生まれたこと。	2017年3月20日、簡井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 (本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、簡井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された)
	グリーン・バーク「モダニズムの起源」を『Art Magazine』で発表			『グリーンバーク批評選集』勁草書房、2005年の「初出、訳出一覧」より初出をピックアップ
	アルバース『描写の芸術』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
	ケンブ『観者の領分』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1984	T・J・クラーク『近代生活の絵画』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1985				
1986				
1987				

1988	スピヴァク『サバルタンは語ることができるか』刊行（1998年邦訳刊行）	文化的他者論	・ポストコロニアル批評の先駆け／ポスト構造主義の矛盾／他者としての「植民地的主体」／サバルタン女性のおかれた袋小路 ・スピヴァク（1941-）アメリカの比較文学者。デリダの『グラマトロジーについて』の英訳者としても知られる。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1989	グリーンバーク『芸術と文化』がフランスで翻訳刊行される	グリーンバーク言説のフランス受容		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
	ノックリン『女、美術、権力』刊行			高橋秀爾、三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997の「西洋美術史作品年表」「研究史・批評史」より
1990	バトラー『ジェンダー・トラブル』刊行（1999年邦訳刊行）	文化的他者論	・アイデンティティの脱構築／セックスも構築されたもの／男根ロゴス中心主義の根源／パフォーマンスティヴィティによるオリジナルの空洞化 ・バトラー（1956-）アメリカの哲学者、比較文学者。従来のフェミニズムで用いられてきた用語を批判的に乗り越える。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1991				
1992				
1993	デリダ『マルクスの亡霊たち』刊行（2007年邦訳刊行）	表象文化面からの資本主義批判	・価値を否定されたものの現れ／物資の超感性的性格／存在論的地平の揺らぎ／ ・デリダ（1930-2004）フランスの哲学者。アルジェリア生まれ。脱構築をキーワードとした哲学理論を唱えた。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
1994	ソーカル事件：アラン・ソーカルがたいした内容のない自然科学的議論をした論文を『ソーシャル・テキスト』という雑誌に投稿し、～中略～学術的な雰囲気をするだけの意味不明な議論がまかり通っていることを指摘			
1995	アニメ『新世紀エヴァンゲリオン』放映（1995年10月～1996年3月）			
1996	ティエリー・ド・デュヴがグリーンバーク研究本を刊行	グリーンバーク言説のフランス受容		2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1997				
1998	ニコラ・ブリオー『関係性の美学』		・キュレーター文化	2017年3月20日、筒井宏樹講演「グリーンバークからオクトーバー派が日本に与えた影響をめぐって」発表スライドより。 （本公演は、岸井大輔企画の「serrata 2017」関連企画のひとつとして、筒井宏樹×熊倉 敬聡×岸井大輔の鼎談とセットで開催された）
1999				
2000	ネグリ／ハート『（帝国）』刊行（2003年邦訳刊行）	文化的他者論	・新しいグローバル資本主義批判／脱中心的で脱領域的な支配装置／ ・ネグリ（1933-）イタリアの哲学者、政治活動家。ハート（1960-）アメリカの哲学者。	仲正昌樹『現代思想の名著30』筑摩書房、2017
2001				
2002				
2003				
2004				
2005				
2006				
2007				
2008				
2009				
2010				
2011				
2012				
2013				
2014				
2015				
2016				
2017				